

環境活動報告書

株式会社 西武百貨店



環境への配慮に 裏付けられた 企業経営の 在りかたを求めて

ごあいさつ

21世紀を目前にひかえ、環境問題を抜きにしては企業経営を語れない時代になってきました。

企業は事業活動を通じて社会に貢献する使命をもちますが、その前提としてコーポレートガバナンスの柱となる環境への取り組みは、大命題と言えます。実際に、環境への取り組みの度合いを評価して企業価値を測ることは、グローバルスタンダードとなっています。

法規制の面でも、「改正省エネ法」、「容器包装リサイクル法」、「大規模小売店舗立地法」など、1999年から2000年にかけて多くの環境に関する法律が施行され、2001年に向けても「食品廃棄物リサイクル法(仮称)」、「家電リサイクル法」などが予定されています。私たちの身近なところで環境への配慮が当たり前の時代になったことを、あらためて感じさせられます。

私たち西武百貨店は、こうした時代のなかで、日々の営業活動から生じる環境負荷を系統的に軽減するため、環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO14001」を、1999年4月に33事業所一括のマルチサイトで取得いたしました。百貨店業界では初めてのことです。1999年度は、「ISO14001」の取得元年として、当社の環境マネジメントシステムがすべての社員の仕事の一部として定着することを目指して活動しました。

「企業市民」として、環境活動は次世代への大きな責任と認識しています。私たちは「小売業(百貨店)」を担う一企業として、「消費者(お客さま)」と「生産者(お取引先)」との結合点に立ち、「自然との調和」「地域社会との共生」を基本理念としながら、率先して環境活動を推進し、皆さまといっしょに社会全体の環境保全活動の拡大に貢献していきます。



株式会社 西武百貨店
代表取締役社長

堀内幸夫

環境方針

西武百貨店は、「自然との調和」「地域社会との共生」を心がけ、地球環境にかける負担をできるだけ少なくするように努めます。

- 1 当社は販売・サービス、店舗等の施設の運営などすべての業務範囲において「環境に配慮した活動」を推進し、汚染の予防に努めます。
- 2 環境管理に関する役割、責任及び権限を明確にしたマネジメントの仕組みを維持し継続的に改善します。
- 3 当社の事業活動に沿った環境目的、目標を定め実行し続けます。
 - ①当社の事業活動が環境にどのような影響を与えているかを把握し、
 - 「廃棄物の削減及びリサイクルの促進」
 - 「出入車両(業務用)の削減」
 - 「省資源・省エネルギー」
 - 「環境に配慮した商品の取扱い拡大」をはじめとした環境目的を達成するために具体的な目標を定め実行します。
 - ②年度毎に実行結果を確認し見直しを行います。
- 4 当社の活動にかかわる環境関連の法規制、条例を遵守します。また自治体との協定など当社が同意する事項についてもこれを守ります。

この環境方針は全社員に周知するとともに、社外にも公開します。

1998年9月1日制定

環境マネジメント推進体制	3	循環型社会に向けた新しい店づくり	23
環境マネジメント導入の歩み	5	2000年度「ISO14001」定期審査報告	24
環境方針に基づく14の取り組み	9	1999年度の環境活動の成果	25
社員一人ひとりの意識づくり・教育活動 ...	19	2000年度の環境への取り組み	27
環境活動とコミュニケーション	21		

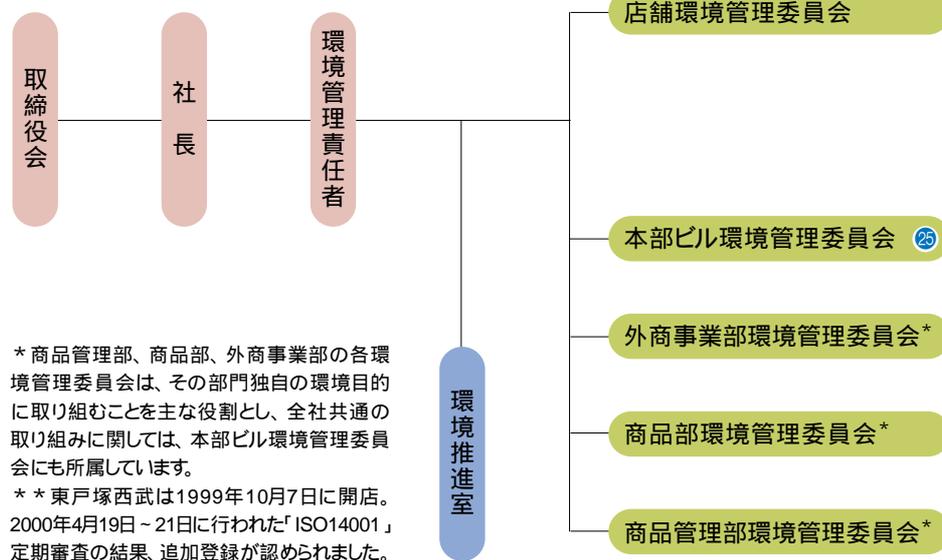
目次

(この報告書は、1999年度の実績として表されている数値については西武百貨店の会計年度に準じ、1999年3月から2000年2月の期間のものを記載しましたが、具体的な活動については2000年6月までの情報も盛り込んでいます。)

社員一人ひとりが推進者
西武百貨店の環境マネジメント推進体

環境マネジメント推進組織

「ISO14001」規格認証を、店舗・本部・外商事業部の各地域営業部・物流センターからなる33の事業所においてマルチサイト方式で取得しています。



* 商品管理部、商品部、外商事業部の各環境管理委員会は、その部門独自の環境目的に取り組むことを主な役割とし、全社共通の取り組みに関しては、本部ビル環境管理委員会にも所属しています。
* * 東戸塚西武は1999年10月7日に開店。2000年4月19日～21日に行われた「ISO14001」定期審査の結果、追加登録が認められました。

環境問題への積極的な対応は、いまや企業活動を行う上で見過ごせない大きなテーマとなっています。環境問題への関心が地球規模で高まる中、企業に対する社会の評価が今後、環境問題への取り組み姿勢によって大きく左右されるのは確実です。

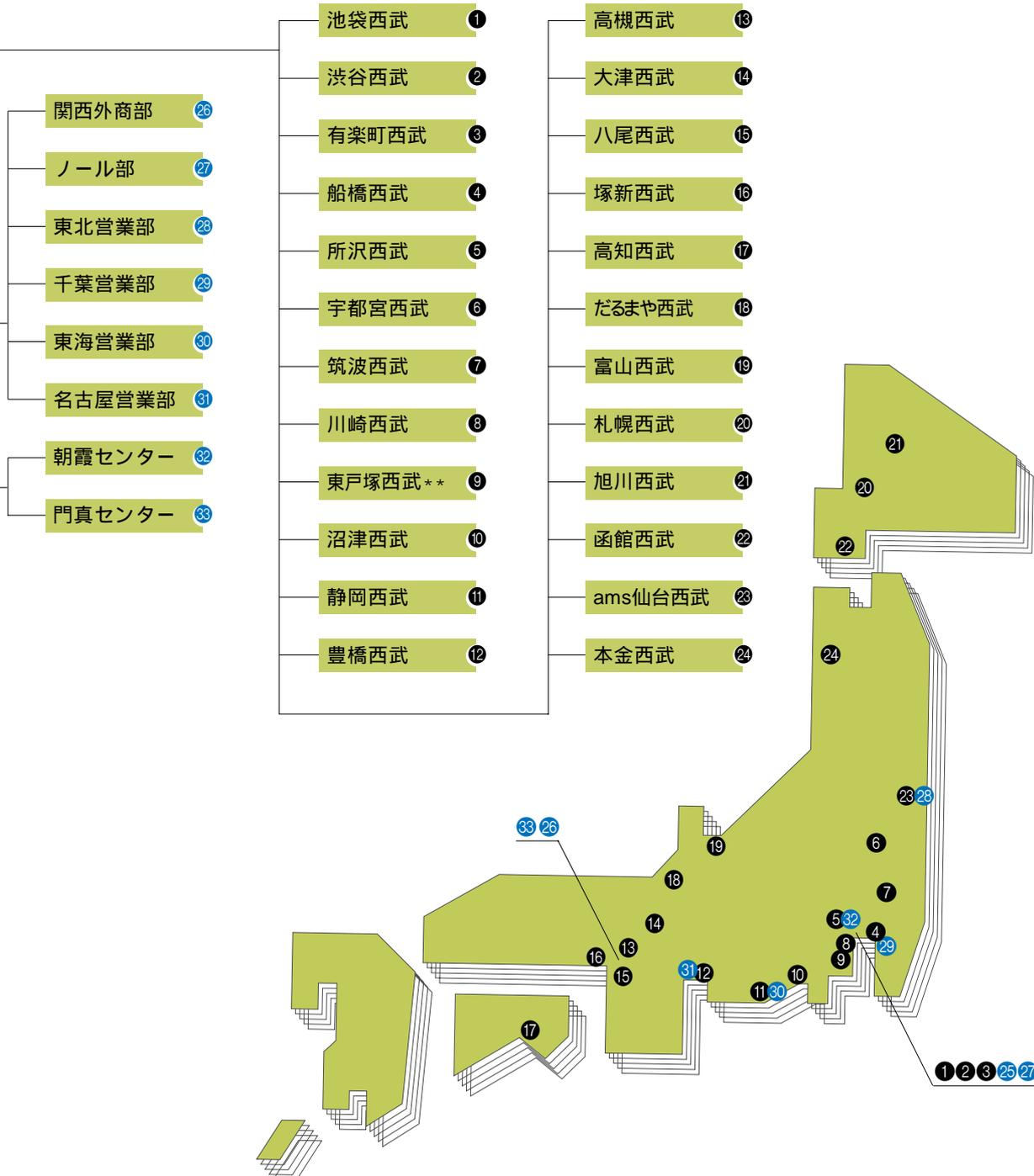
企業が環境を守るという課題へ取り組もうとすると、企業とそこに所属する個人の意識が一つになり、日々の努力が積み上げ

られて初めて大きな成果を得ることが出来ます。西武百貨店では、その環境方針でも述べているように、『自然との調和』『地域社会との共生』を心がけ、全国24店舗、本部、外商事業部の各地域営業部、物流センターに勤務する社員・パートナー社員、そして取引先企業からの派遣社員の皆さん総勢約3万名のメンバー一人ひとりの力を結集して環境保全活動に取り組んでいます。

環境問題への取り組みは、一企業の努力だけでは大きな成果をあげることはできません。特に生活者と生産者の間に立ってさまざまな商品やサービスを流通させている百貨店では、製造業のように省エネ型の新しい機械を導入



入ることだけでは大きな成果を達成するのに充分とはいえません。私たちは、地域のお客さまはもちろん、お取引先企業の皆さまの協力に支えられて効率的な環境マネジメントを推進しています。



環境マネジメント導入の歩み

PDCAサイクルのスタートから「ISO14001」認証取得まで ▶▶▶

環境活動の黎明期

1990年

1月にフロンガスを使用したスプレー製品を店頭から排除。7月から中元ギフトセンターを中心に簡易包装の取り組みを進めたほか、コピー・OA用紙、名刺など社内用度品を再生紙を使用したものに切り替えました。

1991年

5月から紙ゴミの分別回収をスタートし、社内のコピー用紙を全面的に再生紙に切り替えました。8月には「西武百貨店エコロジー・ハンドブック」を発行し、お客さまや社員などに配布。9月にはエコロジー商品を集めた売場も開設しています。



1992年

8月、前年の取り組みをさらに進め、独自の「環境商品基準」にもとづいた商品を「エコノザウルスマーク」を入れた専用ショーカードで表示しました。このときの基準づくりは現在の「環境商品選定基準」に引き継がれています。



1993年

包装用袋・包装紙・手付袋などの消耗品を見直し、アイテム数の絞り込みと全店での統一・使用基準づくりを行いました。一方、催事場などで使用するため、簡易包装に適した包装用品を用意し、5月から順次各店へ導入を進めました。

1995年

3月、東京・関東圏の10店舗で衣料品の「ハンガー一納品代行システム」を導入開始。ダンボール使

用削減に向かってまず一步を踏み出しました。

1996年

2月、外商事業部がペットボトルのリサイクルビジネスを開始しました。

環境マネジメントシステムの構築期

1998年

3月 環境マネジメントシステム構築に向けて、社員の意識づくりのため、社内報で環境についての連載を開始しました。

「ISO14001・経営トップセミナー」

4月10日▶

「ISO14001」規格認証の取得に向けた活動を行い、企業として環境に配慮する



社会的責任を明確にする方針を決定。

環境管理責任者を任命するとともに、各店舗・本部に環境管理委員会を設置。また、全社の取り組みを円滑に進めるため「環境プロジェクト」を発足させました。

5月 環境ホルモンの影響が懸念される幼児向け商品の取り扱いを中止しました。

5月22日～6月10日▶各店・本部各部の環境管理委員会による「初期環境調査」

西武百貨店の企業活動における環境側面(環境に影響を及ぼす原因となりうる要素)を調査しました。

6月▶全店舗・本部の課長・係長による環境側面の洗い出し。

より具体的な活動内容を計画するため、環境に影響を及ぼす可能性のある業務を徹底的に洗い出しました。



リニューアルオープンした船橋西武(8月27日)・静岡西武(9月10日)で、お客さま用・社員用に分別回収できるゴミBOXを導入開始。また、女子社員のユニフォームを再生PET素材のものに変更しました。



9月1日▶「環境方針」を決定。全店舗で週1回「環境デー」を設け、業務のなかでの環境活動を考えていく仕組みをスタートさせました。

11月9・10日、13・14日▶内部環境監査員研修を実施しました。

環境に対する社員の意識づくりのために11月に「環境マーク」を募集。617作品の応募があり、最優秀作は社内の環境ポスターに採用されました。(P.19)



環境マネジメントシステム運用期

11月15日▶1999年度の環境目標値を発表。「環境方針に基づく4つのテーマと14の取り組み」それぞれについて、1999年度中に改善する目標数値を決定し、環境マネジメントシステムの運用を開始しました。



1999年

1月28日～2月10日▶第1回内部環境監査

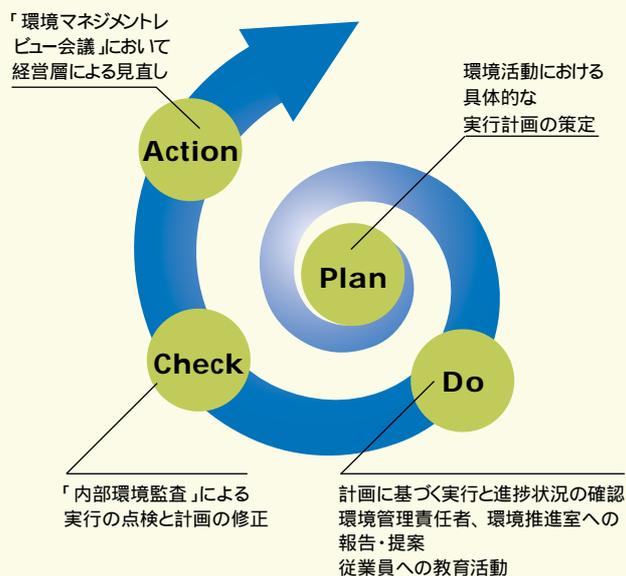
内部監査員が環境マネジメントシステムの運用状況、環境方針や取り組みについての社員の意識、目標の達成状況を確認しました。



3月 店頭の販促ツール・用度品などの印刷用紙をエコマーク認定の再生紙や非木材紙に切り替えました。

西武百貨店では1998年5月、環境マネジメントに関する国際的な規格である「ISO14001」の認証取得を目指し、「環境プロジェクト」を発足させました。取り組みの第1ステップとして、私たちの企業活動や日常の業務が環境に及ぼす影響を洗い出し、その結果約4,000項目があげられました。中でも特に環境への影響が大きいものを、「環境方針」で述べている4つの環境目的に沿った10項目、およびそれに加えた4項目の計14項目として目標化。実行計画(環境マネジメントプログラム)を作成したのです。1998年11月からマネジメントシステムの運用を開始し、1999年4月には、国内の百貨店としては初めて「ISO14001」の認証を取得しました。

環境マネジメントのためのPDCAサイクル



◀◀◀ PDCAサイクルのスタートから「ISO14001」認証取得まで

2月～3月 ▶ 財団法人 日本品質保証機構 (JQA) による「ISO14001」登録審査

4月9日 ▶ JQAにおいて「ISO14001」認証取得



「ISO14001」規格に適した環境マネジメントシステムをもつ企業として正式登録。百貨店としては第1号の取得となりました。

全店・全事業所を審査・登録証番号 JQA-EM0401

登録範囲としたマルチサイト方式による一括取得で、登録範囲は全23店舗(当時)、外商地域営業所6カ所、物流センター3カ所、および本部の合計33カ所です。

4月 社員のネームプレート・販売員カードなどの素材を再生PETへ順次切り替え

6月1日 全店一斉で簡易包装キャンペーンをスタート

6月5・6日 「エコライフ・フェア 99」(東京・渋谷)に出展

6月12・13日 「環境にやさしい製品展」(北海道・旭川市)に出展

7月31日・8月1日 「エコアクションさっぽろ 99」(北海道・札幌)に出展

8月 食品フロア、レストランで使用されるラップフィルムをポリプロピレン製へ切り替え

10月 「東京都・環境にやさしい買物キャンペーン」に参加

10月7日 東戸塚西武(神奈川県・横浜市)がオープンし「エコステーション」が稼働開始。

10月23・24日 「99とやま環境フェア」(富山県・高岡市)に出展

2000年

2月2～6日 船橋西武特別催事場で開催された「第34回船橋市生活展」に出展



2月3日～10日 ▶ 第2回 内部環境監査

3月 ▶ 2000年度の組織改定により総務部に「環境推進室」を新設

これまで環境活動の推進を担当してきた環境プロジェクトを発展的に解組しました。

3月16日 ▶ 経営層による見直しを行う「環境マネジメントシステムレビュー会議」開催

1年間取り組んできた環境マネジメントシステムについて、「内部環境監査の結果」「環境目的・目標の達成度」「不適合事項の確認と是正」「法規改正や新技術の導入など周囲の状況変化」「社内外からの要望」の点から審議を行い、見直しを図りました。PDCAサイクルはこれで1巡し、新たなサイクルに入りました。

4月19日～21日 ▶ 「ISO14001」第1回定期審査

1999年の登録審査と2000年の定期審査を合わせて、全店舗がJQAの審査を受けました。



環境方針に基づく4つのテーマと 14の取り組み

テーマ	ねらい	取り組み
廃棄物の削減 および リサイクルの推進	廃棄物問題の改善と 資源の有効利用を 促進する	1 廃棄物の削減 ゴミを発生させない仕事の仕方を工夫し、廃棄物の発生を抑制します。（“廃棄物”のなかにはリサイクルして資源化できるものも含まれます）
		2 リサイクル率の向上 紙・ダンボール・プラスチック・缶・ビンなど、ゴミの分別を徹底し、ゴミ総量に対するリサイクル率を向上させます。
		3 統一ハンガーの利用率向上 百貨店統一ハンガーの利用を拡大し、プラスチック原料の使用量削減とリサイクルを促進します。
省資源・ 省エネルギー	資源・エネルギーの 無駄な消費を抑え、 生産・消費によって 生じる環境負担を 軽減	4 紙類使用量の削減 お客さまのご協力をいただきながら、簡易包装を進めます。コピー用紙の使用基準づくり、伝票・帳票類の見直し・整理を行います。
		5 電力使用量の削減 会議室、通路、パソコン、トイレなど、不用な照明・電気のスイッチをこまめに消し、階段の利用を促進します。
		6 重油使用量の削減 自主管理基準による効率的運用と燃料代替の検討を行い、重油使用量の削減を行います。
		7 水道水使用量の削減 社員一人ひとりの水道の使用方法を見直し、無駄をなくすとともに、節水コマやトイレの擬音装置などを設置します。
業務用出入り車両の削減	車両の運行から生じる環境負担を軽減	8 出入り車両（業務用）の削減 納品代行システムによる路線便の利用削減等、物流の効率化を行います。
環境に配慮した商品の取り扱い拡大	小売業の品揃え機能を環境保全にも活用	9 選定基準商品の品揃え拡大 西武百貨店の「環境に配慮した商品」の基準を定め、取り扱いを拡大します。
		10 環境商材の拡大 外商事業部による環境機器やリサイクル素材を使用した商品の開発・販売を拡大します。
その他	事業活動によって生じる上記以外の環境負担の軽減	11 廃材品のリサイクル促進 環境に配慮した業者との取り組みを推進し、工事廃材削減チェック表・工事廃材回収表に基づいた四半期ごとの点検・見直しを行います。
		12 防災訓練の参加率の拡大 すべての社員が年4回以上、防災訓練に参加することを目指します。
		13 フロン使用の削減と管理強化 館内の冷暖房器や食品の冷蔵・冷凍機器などについて、特定フロン使用機器の削減を推進します。
		14 環境に配慮した素材の点検 店舗・事務所の備品や、社員が身につけているバッジ等について素材を点検し、環境ホルモンなどによる有害な影響のない素材の使用を進めます。

14の取り組み

Theme 1

廃棄物の削減と リサイクルの推進

環境問題は、消費生活と密接な関わりがあります。全国のゴミ埋め立て処分場が急速に逼迫しているいま、廃棄物の削減とともにゴミを資源としてリサイクルする循環型社会の実現が急務となっています。私たちは、さまざまな商品やサービスを生産・流通させており、お客さま＝生活者に最も近い企業として、廃棄物の削減とリサイクルの推進に率先して取り組んでいます。

1 総廃棄物量の推移 単位:t



99年度(前年差 1,190t)
→4tトラック約300台分を削減

取り組み 1

廃棄物の削減

多種多様な商品を取りそろえている百貨店では、物流プロセスでの梱包など、日常の業務にともなう多くの局面でゴミが発生します。当社では、メーカーをはじめとするお取引先企業の協力のもと、そうした仕組みを根底から見直すことでゴミの発生そのものを抑えようと努めています。衣

料品をダンボールに梱包せず、ハンガーにかけたまま輸送する「ハンガー納品代行」などはその一例です。さらにハンガー納品代行と「百貨店統一ハンガー (P.10) を組み合わせることで、物流のスリム化と廃棄物抑制の効果をさらに高めています。

1999年度のハンガー納品代行に参加しているお取引先企業は180社。95年導入時の113社から年々増加し、いまでは年間約245万着の輸送に利用されています。



95年3月から開始されたハンガー納品代行システム。これによりダンボールの使用量は大幅に削減されました。



お取引先と組んでリターンブルコンテナの利用も積極的に行っています。資生堂と共同で、百貨店で初めて化粧品のリターンブルコンテナによる納品を開始したのもそのひとつ。従来のダンボール箱は、納品後に廃棄されていましたが、リターンブルコンテナは、コンパクトに折りたたまれてメーカーへ戻され、繰り返し納品に利用されます。



株式会社イッセイミヤケのダンボール製リターンブルボックス。20回以上繰り返し使用できます。

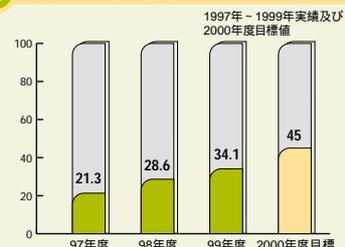
取り組み2

リサイクル率の向上

環境保全活動のひとつであるリサイクルに向けた「ゴミの分別回収」への取り組みとして、「新聞・雑誌」と「カン・ビン・ペットボトル」、「その他」の3つに分類できるお客さま向けの

分別ゴミBOXを全店に設置するとともに、社員用の6つに分類できる「分別回収BOX」を設けました。こうした分別回収の取り組みは、今後とともにさらに拡大・充実を図っていきます。

2 リサイクル率の推移 単位：%



お客さま用3分別ゴミBOX



社員用6分別ゴミBOX

取り組み3

統一ハンガーの利用率向上

メーカーの出荷から店頭陳列まで、すべてを1本のハンガーでまかなう百貨店統一ハンガーは、日本百貨店協会、日本アパレル産業協会などが推進しているシステムです。従来は、納品された商品をブランド名や百貨店ロゴ入りのハンガーにかけ

替え、納品に使用したハンガーは廃棄処分していました。しかし、共通の仕様にもとづく統一ハンガーではかけ替え作業もなく、何度も再利用されます。西武百貨店では1997年6月に導入をスタートし、99年度にはハンガー納品された商品点数計244万8,764点のうち、46万6,320点に統一ハンガーを使用しました(利用率15.9%の目標を上回る19.0%の成果を達成)。



使用后、ハンガーは専用ボックスに集められ、回収されて洗浄、再利用されます。老朽化・破損後は破砕されて再生プラスチック原料にリサイクル。

3 百貨店統一ハンガー利用率の推移 単位：%



Theme 2

省資源・ 省エネルギー

限りある資源を次世代に残し、地球温暖化の最大の原因である二酸化炭素の排出を抑制するためには、再利用・再使用による循環型社会を実現していく必要があります。私たちは、地球環境への負担の少ない経済社会を作り上げるために、省資源・省エネルギーへの取り組みを緊急の課題と考えています。

取り組み4

紙類使用量の削減

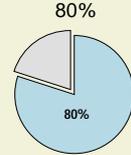
[1] お客さまとともに「簡易包装」を推進

従来から簡易包装に取り組んできた西武百貨店では99年、環境庁が「環境月間」に定めている6月を機に、簡易包装をさらに推進する活動を全社的にスタート。お客さまのご支持のもと、売場の社員一人ひとりが紙の手付袋を使用した完全包装から、燃やしても有毒ガスを発生しないポリ手付袋への移行など、包装の簡素化に取り組みました。

（お客さまの声を聞きながら）

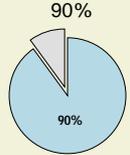
「簡易包装」の推進が一方向的な押しつけにならないよう「クラブ・オン」（西武百貨店の会員制ポイントシステム）メンバーの方々や、各地で行っている環境フェアのご来場者にアンケートを実施し、お客さまの声を反映させるように努めています。

簡易包装支持

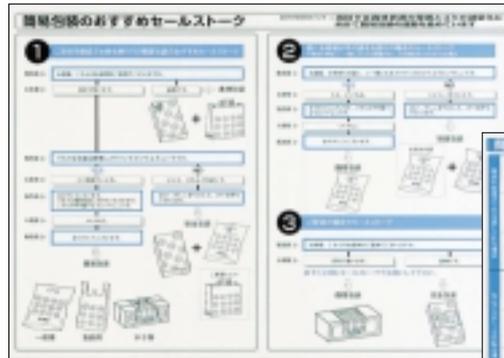


「クラブ・オン プラチナ」のお客さまアンケート(816名)

簡易包装支持



'99年6月5・6日渋谷にて「エコライフ・フェア 99」ご来場者(422名)



全店舗のレジには「簡易包装マニュアル」が備えてあり、それぞれの商品の形状やこわれやすさなどを考慮した包装ができるようになっています。



売場ではお客さまのご要望を確認した上で、「簡易包装マニュアル」に基づき、商品に応じた包装を行っています。

4-1 手付袋・包装紙使用量の推移 単位:t



99年度(前年差 105t)
→直径14cm、高さ8mの樹木2,333本相当を削減

[2] コピー用紙、伝票・帳票類の使用量削減

西武百貨店の全店で使用しているコピー用紙(古紙混入率70%)は、A4判に換算すると年間に2,550万枚(99年度実績)、直径14cm・高さ8mの樹木2,266本分に相当します。これを削減していくため、コピー用紙の両面使用や資料作成時の枚数制限などに徹底的に取り組むとともに、

本部ビルでは紙ゴミを3種類に分類・リサイクルし、その一部をトイレトーパーとして再利用しています。

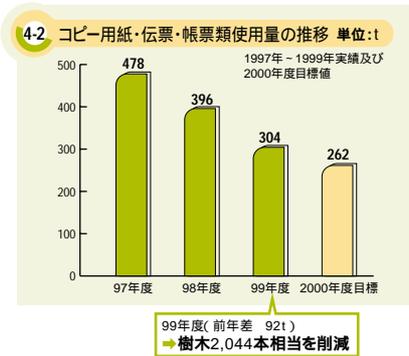
また、毎年2月と8月に全店で行われる棚卸についても、伝票を使用した手作業中心の業務から、値札バーコード読み取りによるスキャンへの移行により、伝票類の使用枚数を大幅に削減しています。



各店舗の事務所や本部ビルに設置されている紙ゴミリサイクルボックス。



棚卸のスキャン率は商品点数ベースで98年度の23.4%から99年度は62.1%へ拡大。その結果、「附上票」8,596冊(22枚綴り)、「附上整理票」71万8,000枚の削減に。



取り組み 5

電力使用量の削減

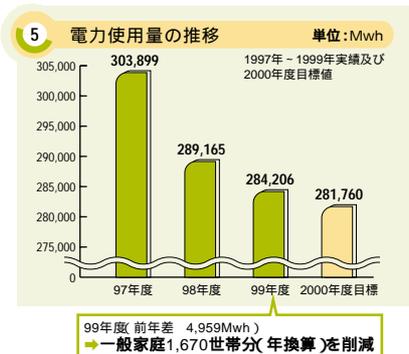
各店舗の事務所やバックヤード、本部ビルでは、蛍光灯を個別のスイッチにしており、社員がデザインしたうさぎのキャラクターの節電プレートがついています。その数は全店で約2万カ所あり、それぞれの管理担当者が不在時のこまめな消灯を心がけています。また、エレベータの使用を控える「階段の2up3down運動」も推進しています。これらの取り組みにより、99年度1年間で約1,670世帯分の年間使用量に相当する電力消費を削減しました。



蛍光灯につけられたスイッチプレートのうさぎは、社内公募で採用された環境キャラクター応募作品。裏には管理責任者の名前が書かれています。



階段を上る時は2階分、下る時は3階分ならエレベータを使わないで歩きましょう。と「2 up 3 down 運動」を呼びかけるポスター。



14の取り組み

Theme 2

省資源・省エネルギー

取り組み 6

重油使用量の削減

館内の冷暖房を中心に、現在10店舗でボイラー燃料として重油が使われています。重油は燃焼時に温暖化の促進要因となるCOxの排出が多いため、設備老朽化に際してはガスなどの環境負荷のより少ない燃料で稼働できる設備へ切り替えを図っています。稼働中の設備については、空調温度、運転時間などの使用基準をつくり、最小限の使用にとどめるよう管理を行っています。



使用基準マニュアルを現場に常備。



使用基準に合致しているか、定期的に機器類をチェック。



取り組み 7

水道水使用量の削減

全店の社員用女性トイレに水流の擬音装置の取り付けを行い、2000年2月に、総計1,000個の設置を完了しました。これにより1年間に削減できる水道水の量は約1万3,000立方メートルとなります。日頃から社員一人ひとりが節水を心がけ、水の出しすぎ、流しすぎをしないよう注意を払っています。



女性用トイレの擬音装置



一人ひとりの心がけが大きな成果に。



Theme 3

業務用出入り車両の削減

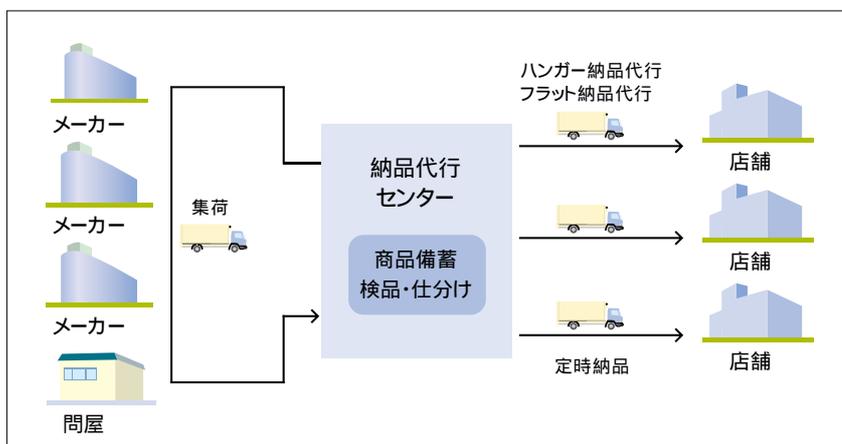
ファッションや食品、さまざまな生活用品など、お客さまの多様なニーズにお応えするためのおびただしい種類の品揃えは、車両を中心とする物流によって支えられています。私たちは、物流方式の見直しによって納品車両の削減を図り、交通混雑の緩和や車両の排気による環境汚染の軽減につなげていきたいと考えています。

取り組み 8

業務用出入り車両の削減

メーカーや問屋からの個別納品ではなく、納品代行会社が商品を集荷して仕分けし、店舗への納品を行う「納品代行システム」は、運送車両数の適正化を図る上で有効な方式です。95年8月から全店でこのシステムがスタートし、99年度には利用お取

引先の数は631社と、主要お取引先の92%をカバー。ハンガー納品、フラット(箱物)納品ともに利用されています。また、98年9月には、関東・東海圏のフラット納品代行が都内の湾岸地区にある西武運輸・品川流通センターに集約されたことで、センター間の商品移動がなくなり、4トントラックに換算すると月間75台分の納品車両の削減が実現されました。



西武百貨店のQR・ECR

納品代行システムをより有効に機能させているのが「QR(クイックレスポンス)」「ECR(自動補充発注システム)」です。

お取引先企業と店頭の販売・在庫情報を共有することによって、お客さまの求める商品が必要なときに必要な分だけある「適時適品」の在庫管理と商品発注を実現しています。

8 1日あたり出入り車両数 業務用 の推移 単位:台



99年度(前年差 331台)
 年間約12万台削減(排ガス削減、周辺渋滞緩和)



メーカーから納品代行センターに入荷した商品はソーターにかけられ、オンラインで結ばれた各店舗からの発注情報にもとづいて、納品店舗別に仕分けされます。(写真は東京・木場の「浪速運送」)



Theme 4

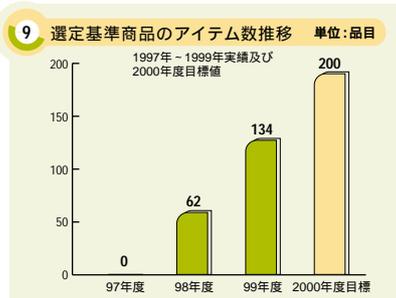
環境に配慮した 商品の取り扱い拡大

地球環境への関心が高まる中、商品の安全性や環境への影響は、いまや機能やデザインと同じようにお客さまニーズを構成する重要な要素となっています。私たちは、そうしたニーズにお応えするため、取り扱い商品を環境の視点でチェックし、環境に配慮した商品の取り扱い拡大に努めています。

取り組み 9

「選定基準商品」の 品揃え拡大

西武百貨店では、環境保全に配慮されていると認められる商品をより多くお客さまにお届けし、環境への負担を減らしていくことを目的に、当社独自の「環境商品」の基準を定め、取り扱い商品や新商品についての選定を行っています。「選定基準商品」は、バイヤーや商品開発部スタッフの提案に基づき、商品部環境管理委員会の審査を経て決定されます。



子どもたちに安全・安心で、環境負荷の少ない製品を

- ① 米国オレゴン州TILTHおよびカリフォルニア州オーガニックフード州令に適合した有機栽培素材を使用したベビーフード
- ② 紡績工場通常廃棄される落綿を活用した「エブリデイキッズ」のリサイクルコットンTシャツ



ペットボトルを再生した素材「フルベット」を使用



素材から生産工程まで環境に配慮する

- ⑥ 有機栽培綿を使用し、さらに無漂白・無染色により化学物質を排出しない製造工程でつくられたオーガニックコットン・バスローブ

西武百貨店の環境商品選定基準

- ① 原材料や生産工程が低負荷であるもの
低負荷の原料、添加物の抑制・無添加、化学処理の省略、有機肥料の使用、特定フロン排除など。
- ② 再生素材を使用しているもの
商品への再生素材混入率が古紙50%以上、再生アルミ60%以上、再生ガラス55%以上、再生プラスチック40%以上。パッケージにおいても同様。
- ③ 再生可能な商品であるもの
リサイクル困難な点の改良がある、複合素材から単一素材へ変更したもの。
- ④ 省資源・省エネ商品であるもの
詰め替え商品、簡易包装化、商品自体に省資源・省エネ効果がある、モデルチェンジの長期化、商品・パッケージに廃材や間伐材使用、流通段階で省エネ効果などもつもの。
- ⑤ 環境保全を促進するもの
水質・大気・土壌保全の効果があるもの、生態系攪乱要因を排除しているもの。
- ⑥ 環境負荷に関する表示のあるもの
LCA表示、廃棄方法の表示、エコマーク表示があるもの。
- ⑦ 環境保全に積極的な企業により製造された製品であるもの
環境保護基金への参加、「ISO14001」取得企業など。

外商事業部の環境商材の拡大

外商事業部では法人・団体のお客さまを対象に、5つのビジネス領域を柱として環境に配慮した商品・サービスの提案・提供を行っています。

環境(機器/包材・資材)

リサイクルシステムや環境機器のご提案、リサイクル商品の開発など、持ち前のコンサルティング力を生かしてハードからソフトにいたるまで、法人の環境ニーズを幅広くサポートしています。

また、非塩ビのクリアケースやトレイ、ダイオキシン発生の心配がないポリエチレン素材のラップ、ケナフ・パガスペーパーをはじめとする非木材紙など、環境への負担が少ない素材を使った包材・資材の開発を行っています。

セールスプロモーション

現在、最も大きいウエートを占めるビジネス領域として、素材から使用時、廃棄までのすべてのプロセスを通じて環境に配慮したノベルティ商品などの提案を行い、クライアント企業のプレゼントキャンペーンの成功を支えています。



99年に新規出店した東戸塚西武では「エコステーション」を開設し、ショールームとしてお客さまへの提案を行っています(P.23参照)

ユニフォーム

再生PET素材を使用したユニフォームを、化粧品メーカーや金融機関、自治体の職員用のユニフォームまた建築会社の作業着などとしてご提案しています。

建装

百貨店の店舗内装の実績・ノウハウを生かしてリサイクル・リユース素材の建材利用を促進するとともに、カーテンやカーペットなど、再生PET素材を使ったインテリア・ファブリック商品の採用拡大に努めています。また、世界品質を誇るインテリアブランド「ノール(本社のあるアメリカで「ISO 14001」を取得)の取り扱いも行っています。

ギフト

法人向けの中元・歳暮ギフトやホテル・公共施設へのプライダルギフトパッケージとして、オーガニック商品などの食品ギフトをはじめ、環境負担の少ない商品パッケージを企画・開発し、お届けしています。

外商事業部では99年度、27億円の目標に対し、28億3,000万円の販売実績を達成しました。環境に配慮した商品・サービスへのニーズがますます高まる中、2000年度はさらに高い目標を掲げて、より積極的な活動を展開しています。



環境に配慮したノベルティ商品

10 外商事業部環境商材取扱額推移 単位:億円



「東京ペットボトル」は、表地の50%以上が再生ペット素材からつくられている西武百貨店オリジナル商品のブランドです。97年4月の「容器包装リサイクル法」の施行に基づいて回収したペットボトルを原料に用いています。



回収されたペットボトルは、異物を取り除いた上で破砕機でフレーク状に破砕。その後、「ペレット」という再生原料の形に加工されて、繊維メーカーや容器製造メーカーなどに販売されます。メーカー側では、この「ペレット」から布製品やさまざまな容器・生活用品を再生産しています。例えば、1.5リットルのペットボトル25~26本で1枚の毛布にリサイクルされます。



再生PET素材を使ったロフトのユニフォーム

その他に
改善すべきだと
考えていること

環境問題への取り組み
にゴールはありません。社
会的責任のもとに企業や
個人が意識を高め、努力
を続けていくことが何より
も大切です。私たちは、環
境保全のためにやるべきこ
とを常に新しい視点から見
つめ直し、具体的な行動
に結びつけるように努めて
います。

取り組み11

廃材品のリサイクル促進

99年9月にリニューアルしたるま
や西武の工事では、建築廃材物の
分別を行いました。また、10月にオ
ープンした東戸塚西武の工事でも、
「ISO14001」の認証取得企業である
熊谷組が、ボードやダンボール、鉄
屑などの建築廃棄物の分別・リサイ
クルを行いました。



取り組み12

防災訓練の参加率の拡大

想像以上に大気へ悪影響をおよ
ぼす火災を防止することは、地域社
会との共生という観点からも重大な
テーマです。当社では毎月1回防災
記念日を設定し、社員全員が年4回
以上、参加することを前提とした防
災訓練を行っています。

各店舗では部分訓練や説明会も
行い、参加できなかった社員へのフ
ォロー訓練も行いました。



開店前の売場での防災訓練

取り組み13

フロン使用機器の削減と 管理強化

食品売場などに設置されている冷
ケースや冷凍機のうち、特定フロン
を冷媒として使用している機器は、
99年度の全店合計で1,474台に上っ
ています。また、館内冷房のための
大型冷水発生装置にも特定フロンを
使用しているものがあり、99年度は
設備更新で新たに1台が削減された
結果、計16台となっています。



冷ケースの温度管理には、商品の鮮度を保つと同時に、機器の故障などによるフロン流出を防ぐ役割があります。

13 特定フロン使用機器（冷凍・冷蔵ケース）台数の推移 単位：台



環境に配慮した素材の点検

環境への負担の大きい素材や環境ホルモンの問題が指摘されている素材については、売場の商品から備品にいたるまで点検を行い、特に環境ホルモンについては、98年5月に影響が懸念される商品を店頭から撤去しました。また、従来から古紙100%の再生紙を使用している一般用の手付袋に加え、ご進物用もサトウキビの繊維を素材とするバガスペ

ーパー製に変更し、店頭に掲出しているポスターも99年3月以降、再生紙に切り替え、さまざまなパンフレット類の作成にも可能な限り再生紙を使用しています。このほか、99年春から新規作成のネームプレートや販売員カードが再生PET素材のものに変わり、98年8月からスタートした再生ペット素材のユニフォームの着用は、いまでは14店舗に広がっています。



販売員カード

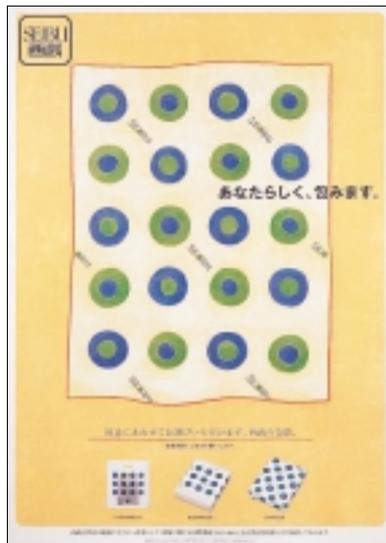


ネームプレート

リサイクル
ユニフォーム



私物袋



店頭に掲出しているポスターや、お客さまにお送りしているDMのはがきにも再生紙を利用しています。



左)簡易包装に多く利用されているポリ手付袋は焼却しても塩化水素等の有害ガスを発生しないポリエチレン製
中央)再生紙を使用した手付袋 右)バガスペーパー製のご進物用手付袋

売場で使われている再生PET素材によるプライスカードスタンド

社員一人ひとりの意識づくり・教育活動

環境への取り組みも

毎日の業務のひとつ、

という意識づくりが

大切だと考えています。

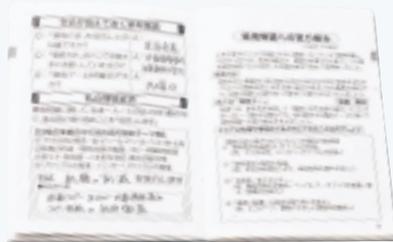
西武百貨店では毎週1回、朝礼を利用して「環境に対する取り組み」について話し合う機会を設け、「環境デー」としています。店舗によって「環境デー」の曜日は異なりますが、そこでは毎回、「全社行動基準」と「領域別行動基準」に続いて「環境方針」の前文を全員で唱和するとともに、月ごとに設定する重点テーマに基づいて環境問題への取り組みを真剣に



「環境デー」の朝礼で環境方針を唱和します

考え、一人ひとりの意識を高めあっています。

月ごとの重点テーマには、環境推進室が設定する全店テーマと各店の環境管理委員会が設定する独自のテーマがあり、具体的なテーマの例としては、ゴミの分別回収の徹底、不要照明の消灯の徹底、無駄な流水の抑制などがあります。



社員全員が常に身につけている「販売基本ルール」にも環境についてのページがあり、一人ひとりが業務の中で具体的に取り組むべき活動について記入しています。



月刊で発行されている社内報には、社内の環境活動をレポートする「環境365日」を連載。



1999年1月から店舗のバックヤードや事務所に掲示しているポスター。キャラクターの「エコちゃん」は社員からの環境マーク募集で集まった617作品のひとつ。

環境デー・全社月間テーマ

1999年

- 3月 「ISO14001」認証取得のための準備
- 4月 「ISO14001」について基本的な知識を身につけよう
- 5月 廃棄物の削減とリサイクルの促進について
- 6月 環境月間の取り組みについて
- 7月 「環境に配慮した商品の取り扱い拡大」について
- 8月 省資源(紙類使用量の削減)について
- 9月 省エネルギー(電力使用量)の削減
- 10月 省資源・簡易包装のおすすめ
- 11月 「ISO14001」取得後の活動成果について
- 12月 繁忙期の取り組み

2000年

- 1月 2000年のスタート月にあたり
- 2月 「ISO14001」の基本知識

すべての社員が

環境活動に取り組むためには

同じ水準の知識と意識を

もつ必要があります。

入店時研修

売場・事務所を問わず勤務するすべての人を対象に、入店時研修の必須項目として「環境問題への取り組み」を実施しています。

99年度は全店合計でパートナー926名、派遣社員約1万2,000名を対象に実施しました。

層別環境教育

層別環境教育としては99年11月、「百貨店に関わる環境法規制」、「地球環境問題について」、「当社の環境活動」の3つをテーマに、パートナーを含む約1万1,700名の社員を対象とする研修を行ったほか、2000年1月には社員および派遣・テナント店長も対象とした「自覚の確認アンケート」を実施しています。

特定教育

特定教育としては年2回、業務委託先社員を含むPCB・フロン・自家発電・ボイラー・廃棄物処理関連業務の担当社員を対象に、運用・運転管理手順についての研修を行っており、99年度は約380名が受講しました。

緊急事態対応手順テスト

緊急事態に備え、その対応手順の検証を行っています。

内部環境監査員の養成

環境マネジメントシステムにおいては、環境活動の実行度を外部の監査に委ねるだけでなく、社内にもセルフチェック機能を持つ必要があります。これがいわゆる「内部環境監査」ですが、西武百貨店では99年10月、新任の総務人事課長をはじめ、店舗環境管理委員会事務局の担当者などを対象に内部環境監査員認定研修を行い、環境関係法律や環境マネジメントシステム、内部環境監査の進め方などに関する講義と修了試験を実施しました。また、11月には内部環境監査員として認定された各店総務(人事)課長・施設(安全管理)課長・環境プロジェクトメンバー計63名を対象に、スキルアップを目的とした内部環境監査員の研修を行っています。



新入社員、パートナー、派遣社員の別を問わず、入店時には必ず環境問題に関する研修が行われます。



層別環境教育



層別環境教育で行われた「自覚の確認アンケート」



重油漏れの対応手順テストを実施

特定教育



内部環境監査員を対象としたスキルアップ研修

環境活動とコミュニケーション

地域の環境活動を通して

社外から貴重な声を

いただいています。

全社で標準化して行う取り組みがある一方で、それぞれの店舗が地域社会の一員として地域の方々といっしょに行っている活動があります。また、当社の環境活動を紹介したり、社外からの声を集める機会をつくる努力をしています。広く社外の方々に理解され、支持される環境マネジメントを実現するために、今後とも力を入れていこうとしているのがコミュニケーション活動です。



「エコライフ・フェア'99（上・右上）」

各地域の環境フェアに参加



「エコアクションさっぽろ'99」

「世界環境デー（6月5日）にちなみ、国立代々木競技場・渋谷プラザでは、99年6月5日・6日の二日間、環境庁・東京都・渋谷区などが主催する「エコライフ・フェア'99」が開催されました。西武百貨店の展示テントでは、当社の環境に対する取り組みをパネルで説明したほか、外商事業部が扱っているリサイクル商品や環境に配慮して生産されたSP商品、ユニフォーム商品、再生PET素材使用の「東京べつとぼと留」開発商品などを展示。アンケートなども実施し、ご来場者から当社の活動へのご意見や助言をいただきました。

そのほか99年6月12日・13日「環境にやさしい製品展」に旭川西武が、同年7月31日・8月1日「エコアクションさっぽろ'99」に札幌西武が、同年10月23日・24日「'99とやま環境フェア」に富山西武が、2000年2月2日～6日「第34回船橋市生活展」に船橋西武がそれぞれ参加しました。

福井ケーブルTV
「集まれ! 福井っ子」より



「集まれ、エコ・パトロール隊!」のこどもたちが
だるまや西武を見学

パトロール後、こどもたちがまとめた
環境活動マップ



3月29日に福井市中央公民館によって行われた「集まれ、エコ・パトロール隊!」は、環境活動に取り組んでいる企業などを見学し、環境を守る気持ちを育てることを目的としたイベント。市内の小学生47名が参加し、だるまや西武へも「パトロール」のため来店しました。こどもたちはリサイクル素材を使った商品の売場やダンボール回収の様子を見学し、レジでは包装紙や紙袋に再生紙が使用されていることを手にとって確かめました。環境を守るために何をすればいいのかわかり、考えはじめるよいきっかけとなりました。

高槻西武で
「環境・ゴミ問題絵画コンクール」開催



高槻西武では、JR高槻駅への連絡口の壁面を利用して「小学生 環境・ゴミ問題絵画コンクール」を1998年9月2日から14日まで行いました。高槻市商工会議所婦人会との共催で、高槻市内の小学生約400名の作品が展示されました。

「八尾市消費生活入門講座」で
「百貨店と環境問題」の講師を

八尾市が主催する「消費生活入門講座」の百貨店編として、2000年5月25日、八尾市文化会館で八尾西武の環境管理委員会事務局長が「百貨店と環境問題」をテーマに講師を務めました。八尾西武が取り組んでいる環境活動を具体的に紹介する一方、参加者の皆さまから多くの質問やご意見などをいただき、環境にやさしい消費生活について考えを深めあうことができました。



社内外のコミュニケーションを
活発にする仕組み

「環境情報通知書・対応書」を導入

当社では、お客さまやお取引先、社員など、社内外からの環境に関する情報を伝達し、すみやかに対応策を講じるために「環境情報通知書・対応書」を導入しています。



事例1

富山県の環境活動の普及啓発を行っている(財)とやま環境財団からの出展要請を受け、「99とやま環境フェア」に参加を決定。富山西武、外商事業部、本部の連携により、参加申し込みや出展準備がスムーズに進み、10月23・24日に実施となりました。



事例2

池袋西武の「お客さまの声BOX」に「トイレの水が流れすぎ。省資源を!」のご意見が寄せられ、ただちに放水流量を調査しました。結果的に異常は見受けられませんが、これを機に全店を調査するとともに、社員用女性トイレに擬音装置を設置し、年間1万3,000トンの使用量削減に結びつけました。

情報の流れ



循環型社会に向けた新しい店づくり

1999年の秋に新規出店した東戸塚西武では、「エコステーション」が大きな力を発揮しています。生ゴミをリサイクルして屋上の緑化に肥料として還元するなど、循環型の仕組みづくりを進めています。



2000年4月に東戸塚西武が、7月にはオーロラモールの管理会社である(株)レニウム企画(西武百貨店関連会社)が「ISO14001」認証を取得し、ショッピングセンター全体で環境意識が高まっています。

「エコステーション」は、店舗で発生するゴミを分別し、中間処理や保管を行う施設です。地域の方々や自治体に廃棄物などの負担をできるかぎりかけないことを目指して、建物の設計段階から導入が計画されました。

この「エコステーション」によって、東戸塚西武では廃棄物の70%以上をリサイクルしています。

お客さまや社員が分別ゴミ箱に捨てたゴミは、エコステーションに集められます。

エコステーションでさらに細かく分別され、リサイクルに向けての中間処理や、最終処分までの保管を行います。

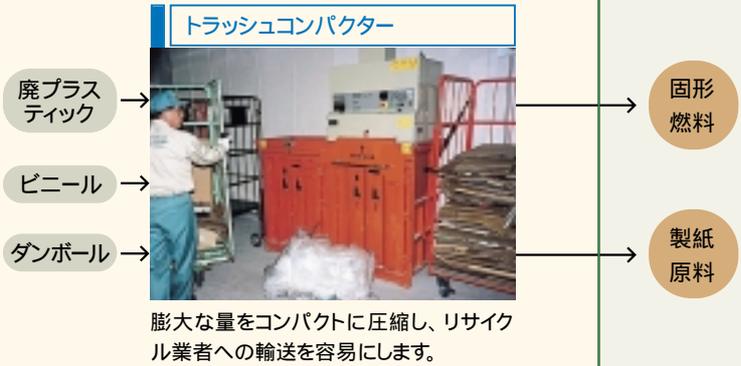
コンポスト

生ゴミをコンポスト(肥料化)してリサイクル。外部で最終処理の後、一部は屋上の約6万株の植物の肥料に使われています。

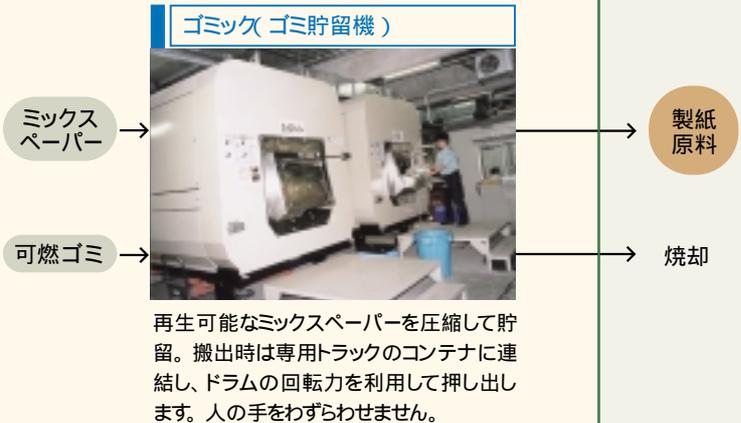


堆肥

資源ゴミ・リサイクル



分別後の管理





2000年度「ISO14001」定期審査報告

財団法人 日本品質保証機構
ISO審査本部
主任審査員 上山 太一郎



定期審査実施概要

審査対象：株式会社 西武百貨店

本部 = 社長、環境管理責任者、環境推進室
部門・事業所環境管理委員会 = 本部ビル
・商品部・外商事業部
店舗 = 東戸塚西武(拡大審査対象店舗)
池袋西武、函館西武、本金西武、
ams仙台西武、宇都宮西武、筑波西武
有楽町西武、豊橋西武、八尾西武、高知西武

定期審査日程：2000年4月19日～21日

JQA審査員：上山 太一郎、飛田 秀幸、佐々木 智久

適用規格：ISO14001:1996

JQA登録証番号：JQA E 0401

審査結果 ①前年登録審査でのマイナーな不適合事項2件(文書管理、緊急事態対応手順テスト)に対する是正処置状況については、登録審査後提出された是正計画書にしたがって是正され、運用されていることを確認した。
②今回の定期審査により、「ISO14001」規格に基づく環境マネジメントシステムが維持管理されていると判定した。
③定期審査に加え、東戸塚西武の新規追加登録申請については、審査の結果、現在構築されている環境マネジメントシステムにしたがって活動(目的目標および関連する運用管理、教育訓練、内部環境監査、ほか等)が実施されていることを確認した。

定期審査講評

2000年4月19日から21日にかけて、(株)西武百貨店の定期審査を実施いたしました。社長へのインタビューをはじめとし、環境管理責任者、環境推進室ならびに12サイト(店舗)と本部内の2部門について、環境マネジメントシステムの継続および改善状況を確認しました。

御社の場合、「ISO14001」の認証を33サイトのマルチサイトで取得しております。そして全体の環境マネジメントシステムについては環境推進室で統括しながら、環境目的を設定している部門(商品部・外商事業部・商品管理部)および24店舗ならびに本部ビルの各サイト単位で環境管理委員会を組織し、環境目標の達成に向け主体的に環境マネジメントシステムを運用している点が特長であると言えます。今回の審査においても、各店舗・部門における環境管理委員会の活性化が、全社員運動としての環境への取り組みを支えていることが十分に確認できました。

製造業等と比較して、百貨店業という環境負荷の低い業種でありながら、全社員に環境への取り組みの必要性を意識づけるのは困難な点もあると思われませんが、審査時の社員の方々へのインタビューでも、皆さんが高い意識を持って取り組まれていることを実

感いたしました。

今回の定期審査では、前年登録審査時のマイナーな不適合事項2件は是正され運用されていることを確認し、また、新たな不適合事項は認められず、「ISO14001」規格に基づく環境マネジメントシステムが維持管理されていると判定いたしました。しかし、文書管理、法的要求事項の照合の手続き、環境影響評価手順、環境関連施設の運用手順等で、ネガティブオブザベーション(観察事項)が散見されました。また、環境目的に掲げている省エネ・省資源については、百貨店としての販売付帯に関わる目的と言えます。本業に関わる環境目的として掲げている「環境に配慮した商品の取り扱い拡大」のさらなる推進も期待いたします。

定期審査初日、堀内社長へのインタビューにおいて、経営者としての環境保全に向けた力強い決意と真摯なお話をお伺いいたしました。社長をはじめ西武百貨店に働く皆さんのさらなる努力により、「ISO14001」環境マネジメントシステムの継続的改善が一層図られ、社会全体の環境保全活動に貢献することを期待して、講評とさせていただきます。

上山 太一郎

1999年度の 環境活動の 成果

1999年度は「ISO14001」の認証取得元年として、環境マネジメントシステムの定着を目的に活動を推進しました。各店舗の環境管理委員会を中心とした全社員運動を進めることによって、社員の環境に対する意識が高まり、日常業務での体質改善の土壌づくりもできました。

その成果を、「ISO14001」に沿って設定した環境目的・目標の実績数値としてご報告します。また、この実績をベースとして、1999年度の環境会計システムを構築しました。

1 環境目的・目標達成状況

(1997年度実績をベースに2000年度を目標の到達点として設定)

[1] 99年度目標達成に向けた具体的活動報告

14項目の環境目標のうち、12項目が目標を達成し、2項目が未達成でした。

[2] 未達成項目の検証

1) 重油使用量の削減(目標差 +49kℓ、目標比 102.5%)

24店舗中10店舗が空調や給湯用の燃料として重油を使用していますが、主に猛暑による冷房使用の増加により目標を超過しました。

2) 防災訓練参加率の拡大

24店舗中10店舗で目標を達成しました。訓練当日のシフト勤務、個別休日取得者へのフォローが課題と言えます。

		97年度	98年度	99年度				
		実績値	実績値	実績値	目標値	目標達成度	前年比	
廃棄物の削減 および リサイクルの 促進	1 廃棄物総量	27,866 t	24,944 t	23,754t	24,343 t	達成(589 t)	95.2%	
	2 リサイクル率	21.3%	28.6%	34.1%	31.7%	達成(+2.4%)	119.2%	
	3 統一ハンガーの利用率	6.0%	8.5%	19.0%	15.9%	達成(+3.1%)	223.5%	
省資源・ 省エネルギー	4 紙類 使用量	手付袋・包装紙	625 t	535t	430t	506t	達成(76 t)	80.4%
		コピー用紙・伝票・ 帳票類	478 t	396t	304t	367t	達成(63 t)	76.8%
		合計	1,103 t	931t	734t	873t	達成(139 t)	78.8%
	5 電力使用量	303,899Mwh	289,165Mwh	284,206Mwh	289,110Mwh	達成(4,904Mwh)	98.3%	
6 重油使用量	2,731kℓ	2,207kℓ	2,006kℓ	1,957kℓ	未達成(+49kℓ)	90.9%		
7 水道水使用量	3,437Km ³	3,139Km ³	2,960Km ³	3,096Km ³	達成(136Km ³)	94.3%		
業務用出入り 車両の削減	8 出入り車両(業務用)数	3,646台	3,231台	2,900台	2,950台	達成(50台)	89.8%	
環境に配慮した 商品の 取り扱い拡大	9 選定基準商品の品揃え アイテム数	0品目	62品目	134品目	130品目	達成(+4品目)	216.1%	
	10 外商事業部の 環境商材取り扱い高	15億	22億5,000万円	28億3,000万円	27億円	達成(+1億3000万円)	126.7%	
その他	11 廃材品のリサイクル	店舗リフレッシュおよびリニューアル時に、環境に配慮したお取引先との取り組みを実施 たるまや西武の業態革新、東戸塚西武の開店において、廃材品の分別(金属板・木材・石膏ボード)とリサイクルの促進						
	12 防災訓練の参加率の 拡大	全社員の60%	80%	85%	100%	未達成(15%)	106.3%	
	13 特定フロンの 使用機器の 削減	館内冷房 機器	20台	17台	16台	16台	達成(0台)	94.1%
		食品用冷凍・ 冷蔵機器	1,771台	1,531台	1,474台	1,500台	達成(26台)	96.3%
14 環境に配慮した素材の 点検	古紙配合率・非木材紙の使用率拡大および環境ホルモン関連商品・消耗品の削減 手付袋の古紙配合率を30%から40%へ。進物袋を非木材紙(バガス)に切り替え。塩ビ・ラップフィルムを非塩素系素材へ。 販売員カード、社員バッジ、プライスカード入れなどを再生PET素材に切り替え。							

2 環境会計システム

[1] 考え方

環境保全コストおよび効果については、基本的に環境庁発行の「環境会計システム導入のためのガイドライン(2000年度版)(2000年5月公表)に準拠する。

①費用対効果(貨幣情報)の算出

環境対策費用とその効果を算出することで、効率的に環境投資を実施するための経営ツールとする。

②非貨幣情報による集計

環境対策効果について、資源・エネルギー削減量・廃棄物削減量・環境汚染物質削減量(CO₂削減量)などの物量値による把握。

記述情報を取り入れ、お客さまや社員に分かりやすい環境会計システムを導入する。

[2] 対象範囲

1999年3月1日～2000年2月29日(財務会計期間と同一)
西武百貨店の全店・全事業所の集計とする。

[3] 定義と算出基準

①環境保全コスト

環境保全のための投資額および費用額と定義する。

*投資の償却……「ISO14001」を取得した1999年度からの環境保全を目的とした設備投資について、減価償却費を経費として集計する。

②経済的効果

環境保全対策にともない、当社が得られた事業収益や、費用の節減を貨幣単位で把握する。

③環境保全効果

環境保全対策に関わる効果。環境負荷量やその増減を物量単位で把握(測定)する。

数字では表現しきれない効果(教育効果など)を「ISO14001に基づく環境活動(記述式)として把握する。

単位:百万円

分類	費用			効果			
	環境保全コスト			経済的効果		環境保全効果	
	項目	投資	経費	項目	貨幣効果	物量単位	ISOに基づく環境活動(記述式)
事業エリア内	メンテナンス投資(外気冷房導入ほか)/ 営繕費(公害防止・地球環境保全ほか) 廃棄物処理費用など	725	1,303	省エネ・省資源・資源循環関連など	584	CO ₂ 合計 ゴミ総量 1,190t (41車 300台分) コピー・伝票類 92t (直径14cm×高さ8m樹木 2,044本)	・ハンガー・納品代行システムやリターナブルコンテナを利用したダンボールの削減 ・分別の徹底によるリサイクルの促進 ・両面コピー・片面使用済み用紙の再利用によるコピー用紙使用量の削減 ・スキャン棚卸率向上による伝票類使用量の削減 ・エレベーターの使用を控え、階段の「2up3down運動」推進 ・社内公募のキャラクター付き蛍光灯用節電プレートによる不用灯消灯 ・全店の社員用女性トイレに水流の擬音装置設置 ・QR・ECRシステムによる納品車両の削減
上・下流*	グリーン購入、外商環境ビジネス関連業務人件費	0	101	環境商材の売上総利益など	418	電力使用量 4,959Mwh (一般家庭1,670世帯分/年) 水道水使用量 179km ³ (50mプール72個分) 重油使用量 201kl	・女性社員用ユニフォーム(99年度本金西武・東戸塚西武)、ネームプレート、販売員カードなど再生PET素材に切り替え ・牛乳パック・ペットボトル・トレイの回収(9店舗) ・外商事業部環境商材の拡大 環境機器の紹介、LCAまで配慮したノベルティ商品のプレゼンテーション、再生素材ユニフォームの提案、リサイクル・リユース素材の建装ビジネス提案 ・簡易包装のおすすめによる包装紙・袋類用紙使用量の削減
管理活動	環境教育、「ISO14001」審査費用、環境マネジメントシステム運用人件費など	0	113	環境教育、環境マネジメントシステム関連など	6	業務用出入り車両数 1,204台 (1,284klガソリン使用量削減) 包装紙・袋類 105t (直径14cm×高さ8m樹木 2,333本)	・「入店時研修」「層別環境教育」などの環境教育による社員一人ひとりの知識と意識の向上 ・毎週1回「環境デー」を設定。日ごとの重点テーマに基づいて、環境問題への取り組みを徹底 ・社内研修制度に基づく内部環境監査員の養成・スキルアップ ・「ISO14001」に基づく環境マネジメントシステムの構築・運用
研究開発	環境保全に資する研究開発コスト	0	0	環境保全に資する研究開発効果	0		・環境に配慮した素材の点検、環境負荷の少ない商品パッケージの企画・開発準備
社会活動	店頭ゴミ分別3連BOX、店舗外周緑化、環境展出演、社会活動・情報公開関連人件費など	0	31	緑化・美化などの環境改善効果、環境情報の公表、環境広告など	0		・全店の出入り口にお客さま向け「ゴミ分別回収BOX」の設置 ・店舗外周清掃実施 ・環境展への参加(環境庁主催「エコライフ・フェア」、旭川・札幌・富山の地域環境フェア)
環境損傷	環境保全に関わる罰金など	0	0	環境保全に関わる訴訟回避など	0		・フロン・自家発電機・ボイラー・廃棄物処理関連などの環境負荷が高い業務に関する手順書の整備と従業員への教育徹底、緊急事態への対応手順テスト実施によるリスクマネジメントの徹底
合計		725	1,548		1,008	1,802t	1,802tは、国民の1年間の1人あたりの日常生活から発生するCO ₂ の量に換算して6,570人分に相当

*上・下流 = 生産・サービス活動にともなって生じるインプット・アウトプットのコストと効果

2000年度の 環境への取り組み

環境活動の大衆運動化を 目指して

1999年度、私たちは百貨店業界初の「ISO14001」認証をマルチサイト方式で取得し、『環境元年』としてシステムの定着を推進してきました。しかし、システムの整備が進んでも、やはり環境への取り組みには一人ひとりの問題意識が不可欠です。

2000年度は現在の環境目的・目標の到達年度です。その目標の達成とさらなるステップアップを目指し、私たちは環境活動を全社員運動として取り組み、日常業務および生活全体のなかで推進していきます。



「環境記念日」を制定し 社員の意識づくりを強化

1999年4月9日に「ISO14001」認証を取得したことにちなみ、この日を当社の「環境記念日」としました。2000年4月9日は、「店舗外周の清掃と売場内クリンリネス」を全店共通テーマとして活動を行いました。その後、毎月1回を「外周清掃デー」と定め、全店で実施しています。



「西武オリジナル・エコロジーバッグ」の 販売開始

2000年4月から「容器包装リサイクル法」が完全施行され、行政面からもゴミの減量化が義務づけられました。

当社では、簡易包装への取り組みをさらに推し進めるため、「マイバッグ運動」に向けたオリジナル・エコロジーバッグの販売を2000年6月から始めました。売上金の一部は、当社の環境記念日(毎年4月9日)に環境保護団体へ寄付します。

取り扱いは婦人雑貨(ハンドバッグ)売場と食品売場です。



①リバーシブルタイプ 800円。ドローストリングで巾着型にも変化します。



②ベーシックタイプ 600円。インナーポケットとキーフックをつけ、機能性にこだわりました。いずれのタイプも、素材はペットボトルのリサイクルから生まれた再生PETです。



「環境選定基準商品」の 取り扱い拡大

2000年度の目標、200アイテムに向けて「環境選定基準商品」を拡大するとともに、環境負担の少ない商品をお求めになるグリーンコンシューマーのお客さまにとってより分かりやすい表示を実現するため、基準づくりやアイキャッチの検討を行います。また、PB商品については、パッケージの軽量化・簡素化など、環境商品にふさわしい仕様に取り組みます。



2000年9月から取り扱いを開始するオーガニック食品「OAO(Organic Agricultural Organization)」



「エコライフ・フェア2000」に参加

2000年6月10・11日の2日間、都立代々木公園(東京都・渋谷)で行われた「エコライフ・フェア2000」に出展。環境方針にかかげられている「自然との調和」「地域社会との共生」の2テーマに加え、「地域環境にやさしい社会づくりのため、皆さまとともに歩みます」をキャッチフレーズに、当社の環境活動を紹介しました。



事例・成果をパネルで解説したほか、商品や環境機器も多数展示しました。



ITの活用で ゴミを出さない仕組みを実現

新ギフトシステムの導入

2000年のお中元からスタートした新ギフトシステムでは、前年のお歳暮でのお買い上げ実績に基づき、お届け先情報などがあらかじめコンピュータに登録されています。新たにご注文を承る際には、すべてコンピュータ画面上でのご確認・修正となり、その情報はギフト包装センターや配送センターへオンラインで送信されるため、伝票・帳票類の使用量の削減に大きな効果を発揮しています。

スキャン検品・棚卸の拡大

納品受け入れの際の検品や年2回の棚卸での商品タグのバーコード・スキャン利用率をさらに高めるため、お取引先企業との取り組み拡大や店舗の体制づくりを積極的に進めています。

電子帳票化の推進

1998年7月に施行された「電子帳簿保存法」を受け、商法で作成・保存が義務付けられている法定帳票(1999年現在、保管している法定帳票は6.9トン)の電子管理化に取り組みます。また、44.7トンにのぼる一般帳票についても統廃合を進め、紙使用の削減を図ります。



7枚複写だった
配送伝票も1枚に



新規オープン・岡崎西武の 環境対策

2000年9月22日新規オープンの岡崎西武(愛知県)では、建築廃材の分別・リサイクルを積極的に推進する一方で、近隣の生活環境の保全を最優先し、きめ細かく注意を払いながら工事が行われています。また、東戸塚西武のエコステーションでの実績を踏まえ、最新の郊外型ショッピングセンターの核テナントにふさわしい設備として、高いリサイクル率を誇る環境対応システムの導入を計画しています。



2000年度の 環境への取り組み

環境活動の大衆運動化を
目指して



コンサルティング力を高め、環境ニーズに お応えする外商事業部の環境ビジネス

2000年度は、1999年度にも増して環境に配慮した提案を、企業や自治体などのお客さまから強く求められています。

外商事業部ではそれらのニーズにきちんとお応えしていくために、お取引先とも年に2回の情報交換会を設け、環境商材開発のためのネットワークづくりを進めています。

また、2000年4月に完全施行された「容器包装リサイクル法」、それに引き続き2001年4月から施行される「食品廃棄物リサイクル法(仮称)」への対応に重点をおき、包材・資材と環境機器の分野に力を注いでいます。単なる商品のご提案ではなく、当社の「ISO14001」取得経験をふまえたノウハウと環境機器などをパッケージ化して、コンサルティングを行いながらお客さまのニーズにお応えするのが外商事業部の務めだと考えています。

事例紹介「マクドナルド」に生ゴミ処理機器を納入

日本全国に約3,000の店舗網をもつ日本マクドナルド株式会社では、2000年4月から生ゴミ処理機の導入を開始しました。外商事業部がご提案したこの機器は、ガスによる自家発電の余熱を利用し、真空乾燥により生ゴミの乾燥・飼料化を行うものです。2000年度から順次導入し、2001年施行の「食品廃棄物リサイクル法」に全面的に対応する計画です。



コンサルティング力を高めるため、「ISO14001」や環境関連法規のセミナーを実施



年に2回行われるお取引先との情報交換会



当社のホームページでも、外商事業部の環境ビジネスを紹介しています。

会社概要

本社所在地 〒171-8569 東京都豊島区南池袋1-28-1
TEL.03-3981-0111

本部所在地 〒171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル
TEL.03-3989-0111

代表者 代表取締役社長 / 堀内 幸夫

設立 1940年3月14日

資本金 69億1,102万円

業績

	売上高	営業利益	経常利益
1998年2月期	6,138億2,200万円	106億7,900万円	53億8,600万円
1999年2月期	5,724億6,800万円	126億2,800万円	63億5,200万円
2000年2月期	5,761億2,900万円	136億3,200万円	38億5,400万円

商品構成 ファッション関連:67.2%、雑貨インテリア関連:10.5%、
食料品:18.2%、その他:4.2%(2000年2月実績)

事業所数 本部1、店舗24、外商事業部7、海外駐在事務所5、物流センター2

従業員数 9,602名(パートタイマー含む)

関連会社 (株)ロフト、(株)シェルガーデン、(株)ポロ・ラルフ ローレン ジャパン、
(株)ヴァン・クリーフ アンド アーベルジャパン、(株)リバティ ジャパン、
(株)池袋ショッピングパーク、(株)モレニウム企画、(株)ハケ岳高原口
ッジ、(株)エルピス、(株)デ・グリフ・クラブ、ジャン・ルイ シェレル ジャ
ポン(株)、(株)エフ、(株)ファミリー西武、(株)大沢商会、朝日食品工
業(株)、朝日工業(株)

ホームページ <http://www.seibu.co.jp>

「環境活動報告書2001年度版」は2001年8月に発行の予定です。

皆さまのご意見・ご感想を お聞かせください。

この報告書は、私たち西武百貨店の環境への取り組みをお知らせするために作成したものです。私たちの環境活動に関心をお持ちのすべての方々にご理解いただくために、具体的な実績数値や写真などを多く掲載するように心がけました。まだまだ不十分で課題もありますが、この報告書が皆さまとのコミュニケーションに役立てば幸いです。

皆さまのご覧になった感想や、私たちの環境活動へのご意見などをお聞かせいただき、今後の参考にしていきたいと考えています。

まことに恐縮ではございますが、裏面のアンケートの質問事項にご回答いただき、西武百貨店・環境推進室宛てにFAXでお送りいただけますでしょうか。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



西武百貨店 環境推進室

FAX:0120-77-1484 (フリーダイヤル)

この報告書は、当社のホームページでもPDFファイルにより
全ページ掲載しております。

<http://www.seibu.co.jp>

「環境活動報告書」に関するアンケート

西武百貨店 環境推進室 FAX：0120-77-1484

Q1 「環境活動報告書」をどのようにお知りになりましたか？

西武百貨店ホームページ 西武百貨店の社員から 新聞・雑誌
その他()

Q2 「環境活動報告書」をどのようなお立場でお読みになられましたか？

消費者・お客さま お取引先 行政 報道 金融機関 企業の環境担当者
学生 西武百貨店の近隣にお住まいの方 その他(具体的に:)

Q3 本誌についてお答えください。

読みやすさについて

大変わかりやすい わかりやすい ふつう

わかりにくい [「わかりにくい」理由についてお聞かせください。]

内容について

充実している 普通 不十分

掲載されているなかで、どの項目に興味を持たれましたか？

[]

Q4 西武百貨店の環境活動に関して、今後どのようなことを期待されますか？

[]

Q5 その他、ご意見やご希望がございましたら、お聞かせください。

[]

ありがとうございました。おさしつかえなければ下記にもご記入をお願いいたします。

お名前	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所		
ご職業 (勤務先)	ご連絡先 自宅・勤務先 (TEL)	



お問い合わせ

西武百貨店 環境推進室

〒171-8530 東京都豊島区南池袋1-16-15 西武池袋ビル

TEL 03-5396-3208 FAX 03-5396-5206



エコマーク認定の再生紙を
使用しています。



000718

本誌は再生紙100%・大豆油インキを使用し、再生可能です。